

## 第5期第10回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2021年7月30日（金） 午後2時～4時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 学習室1・2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、荒井仁、荒井容子、大野浩子、関村浩、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、以上10名（内リモート参加1名）

〔欠席者〕 堂前雅史

事務局：樋口センター長、持田担当課長、岡田管理係長、瀧澤事業係長、田中主事

〔傍聴人〕 無

〔資 料〕 【1】 生涯学習審議会資料（抜粋）

【2】 東京都公民館連絡協議会委員部会資料

【3】 第10回課題資料（再送付）

### 1.報告事項

#### （1）センター長報告

- ・新型コロナの影響（緊急事態宣言禍の対応）について、緊急事態宣言の延長に伴い、20時閉館を継続。
- ・事業の実施状況について（平和祈念事業、デジタルデバイド対策事業など）、平和祈念事業は規模を縮小して実施。8月後半からデジタルデバイド対策事業として「なんでもスマホ相談室」を実施予定。
- ・生涯学習審議会での審議について、資料に基づき、町田市における多様な主体の生涯学習の取り組みや他市の施設の事例を確認。重複している事業の整理と情報提供や学習相談、関係機関との調整など生涯学習支援の重要性について指摘があった。

#### （2）会長報告（生涯学習審議会）

- ・デジタルデバイドの問題が市議会でも取り上げられている。
- ・「資料2」の「町田市における生涯学習の見取り図」は委員会内で、高評価をいただいた。
- ・「資料3-1」の「他自治体における生涯学習に関する施設の設置条例」について、委員から、設置していない江東区、世田谷区について確認があった。
- ・「資料3-2」「他自治体における生涯学習支援の状況一覧」について、委員長から、九段生涯学習会館の人材バンクに関連して、人材バンクではなく、人材ネットワークの構築を進めるべきとの話あり。間を取り持つ存在の必要性。
- ・「資料4」「生涯学習センターの事業の進め方」について、詳細が欲しいと話があり、「町田の教育」を配布することになった。
- ・会長から学校統廃合に関連して、地域の核としての学校の重要性について、運協で話

が出ていることを報告した。審議会でも重要性は理解している。事前アンケートは行政が課題をまとめている。

### (3) 東京都公民館連絡協議会報告（第4回目委員部会の内容について）

○西澤委員から資料に基づき報告

- ・関東ブロック大会の詳細。
- ・各市の公民館の活動内容を調査中。
- ・委員部会研修会について。

## 2.議題

### (1) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

【会長】第9回と10回で、審議会答申の役割(3)「学びの裾野を広げる」をテーマに協議を進めることになっている。前回、協議を行い、①「若い人たちが生涯学習センターを知り、使うためにはどうすべきか」②「本当に知る必要がある人にどう伝えていくべきか」の2点を課題として、協議を深めていくこととした。

【会長】事前の課題回答があるので、1人5分程度意見を説明いただきたい。

#### 【各委員意見】

- ・生涯学習センターを知ってもらうことが大事。大学、体育館、青年会議所など若者の集まる所への働きかけ。YouTube、オンライン講座の活用、実施施設の工夫、郷土文化の活用、若者層のニーズ把握(学ぶ楽しさ、講座の好み・レベル)、高齢者層との連携、資格取得を目指す講座、出会いイベントなどを考えた。生涯学習センター機能を持った場所をいくつか設置し、地区の現場が学校ボランティアコーディネーターや市民の団体等とコンタクト取ることが理想的。

【会長】若い世代に伝える機会を多く作ることや各地域に生涯学習機能を持たせ、地域ごとにやることはどうかという意見だったと思う。

- ・前回資料のアンケートを基に、若い世代への働きかけを考えた。若者は地域の財産。若者の利用は少ないが利用頻度は高い。周知が充実すれば利用は増えるのではないか。オンラインは指針として主張が必要。ハードは好評だが、逆に言えばソフトが弱い現れではないか。周知方法は大学との連携が良い。学生は忙しいので、講座参加が難しければ学生ボランティアから始めるのも良い。一般周知には紙は有効。新聞を取らない家庭も増えているので、ポスティングが理想。ワクチン接種会場での周知も検討すべき。

【会長】前回、今の学生は余裕がないという話があった。今回、委員から資格取得の話があった。若者の人生を豊かにするための生涯学習は伝わりにくいのかもかもしれない。生涯学習センターに、自分の先の人生に価値があるものがあるということを示す意味では、資格学習を視野に入れてもいいのかもかもしれない。

【副会長】学生の資格取得に対するニーズは高い。就活関連は学生にとって高い関心事。まじめな学生ほど、資格を取っておこうとなる。社会教育主事講習に参加している学生も、予め社会教育が何か知って参加している学生は少ない。大学としても資格を取らせる方向で動いている。キャリアセンター、就活支援など。公務員対策講座などもある。

【会長】鶴川に2つの無料塾があり、関わっている。若者が学ぶのには生きてために学びたいというニーズもある。

- ・発想の転換が必要。オンライン化、映像配信は今まで行ったものを流すだけではなく、オンラインのためのシステム構築が必要。オンラインは場所や年齢性別の差がなく全員対象となる。町田市民という限定を行う仕組みは必要。ログから傾向を分析することも可能。

【会長】分析・統計も含めたオンライン化との話だった。生涯学習センターで活動しているグループが色々あるが、高齢者を対象にしたグループのサークル活動、例えば体操教室などをオンラインで流したいという相談が高齢者支援センターに来れば、ソフトバンクと連携して指導するような仕組みがある。人が繋がりにくくなっている時代につながりを作る可能性、世代に関係なく繋がれる可能性がオンラインにはある。更に仕組みにしていくという観点からだと、現在、生涯学習センターの下のフロアにマイナンバーセンターが出来ている。南町田にもできる。マイナンバーに取り組むことも、情報の共有化に繋がっていくのではないか。

- ・以前から協議している市民ニーズに応えながら学びの場を提供するには、施設を知ってもらうことが重要。紙媒体もなくすることはできない。若者にはSNSなども有効だと思う。若者にはフリースペースが好評なので、口コミで広げることも重要。「資料2」の見取り図の内容の多さに感心したが、その反面、部署間の連携が取れているのか疑問がある。たらいまわしのような問題もある。若年層向けのPRに「資料2」の見取り図にある各地域での事業の際、チラシ配布等ができないか。支援級のある学校の子どもは思いやりがあり、気配りができる傾向がある。小さい時から様々な経験・体験をさせることが重要。

【会長】部署間の関係性の構築、小さい頃から共生社会への取り組みが大事という話であった。

- ・裾野を広げるには、地域で活動しているグループのリーダー的な人を集め、議論してもらい、末端まで知ってもらう方がいいのではないか。ガクマチEXPOに集まる学生は、真面目に地域で活動している。このような学生のリーダーに議論してもらいと若者が寄り付かない理由が見えてくる。話を聞いて、生涯学習センターがやるのではなく、一緒に行くことが大事。高齢の政治家がジェンダーについて話すようなやり方は問題がある。例えば「ひきこもり」の問題を検討するのは私たちではなく、問題に取り組み、苦勞して来られた方々のリーダー達。この人たちに何が問題で生涯学習センターは何ができるか議論してもらうことが重要。

もうひとつは所属する部署。講座等をやりましょうという話はよく出てくるが、施設の貸出しも重要。ここに集まるサークルは多くあると思うが、団体が活動していることに意味があると思う。団体が活発になれば、生涯学習センターまつりも活発になる。高齢の方が多いが、月に一度でも集まり、同好の士と話し合っただけ何かを学ぶことは素晴らしいことだと思う。公民館時代から活動しているサークルには世代交代ができなくて、ダメになるものもある。このような層に何かできないか。

- ・裾野を広げるための議論は何回も行い、生涯学習センターも何もやって来なかったわけではない。色々試行してきたが、そうしたことが知識なり記録として蓄積されてこなかったことが問題である。デジタル化・IC化は重要であるが、恩恵を受けられる人と受けられない人の差が拡大していく「K字」型の格差が生じてくる。生涯学習センターまつりでも、動画を撮るだけでも「できない」「撮っても見る環境がない」との意見で辞退するところも多い。学びには対面が大切。置き去りにする人を増やすような取り組みは生涯学習センターが行うべきではない。

【会長】学生と連携。地域を意識する時に地域にある大学・企業を含めて地域という議

論をよくする。前述の鶴川の無料塾では、医師からタブレット、農家から野菜が届く。タブレットと野菜と一緒に届くこと等が、子どもの経験に繋がれば良いと思いがあがる。法政大学は38%の学生が地域活動をしているとのこと。地域が学生に丁寧に関わると、ある程度の結果が出ると思う。

【副会長】2点考えた。一つは企画委員会方式による若者向け講座の開設。若者が参加したい講座を用意できるか否かということ。生涯学習センター職員が、若者の要求をどれくらい把握できているかは重要。一方で若者が何かを学びたい時に、自分が企画から参加できる仕組みが整っていることも重要。そのためのアプローチの一つとして、若者に講座の企画委員になってもらい、テーマ・内容・講師の選定・当日の運営まで職員と行う方式を採用してはどうか。活動成果を成果物として残すところまで想定。委員は公募で、最初は既存の関係若者団体との連携でもいいのではないか。若者ワークショップで性教育講座やメイク講座の話があったが、以前、他の大学で同じ意見を聞いた。高校まではメイク禁止で、大学ではメイクはマナー。誰も教えてくれず苦痛で仕方がないと意見もあった。メイクや服装に悩んでいる学生は多い（社会の圧力も含めて）。既に意見が出ているので、それを学生たちと一緒に現実化してみることはできないか。

生涯学習センターだよりの配布と住民参加での制作。今のHPや生涯学習NAVIには事業の情報は網羅されているが、実施後の報告は少ないので、活動の様子が伝わってこない。HPでも青年学級以外は報告を行っていない。活動の中身が見える化し、情報発信することが必要ではないか。他市では地域を知る媒体として、公民館だよりのある。作成に住民が参加し、学び合う形ができれば良い。

【会長】若者自身が主体となってプログラムを展開するという話は審議会でも意見が出ていた。若者が「自分達が勝ち取った場所」という認識を持てば愛着も湧くのではないか。個人的には、町田市にいるインフルエンサーを集めて意見を聞きたい。

- 学びの裾野を広げるため、「多くの人に関心を持ってもらう」。このためには「市民ニーズ」を把握し、「事業の見直し」をしていくべき。町田市は公民館ではなくコミュニティセンターを設置する道を選んだため、地域で学びを職員が支援する体制がない。本来なら、公民館を増やすべきだが、できない場合、どう考えていくべきか。
- 今利用している方が自分達の施設という自意識を持ち、学ぶ環境を守るという姿勢であれば、生涯学習センターでその点をより進め、まだ利用したことがない方等につながり、裾野が広がっていく。以前意識的に社会教育で行った流れとなるが、全体として高齢化の中でサークルをどう維持していくかを悩んでいる方が多い。若い層ではグループを作る方法も分からない。今、利用している方が自分達でグループを作り、学ぶことを続け、発展させられるか。生涯学習センターまつり等にもつながり、関わることができ、利用していない層にもつながっていく。利用していない層は色々な課題を抱えているが、誰もが学べる環境とは違った視点で、知らないからだけでなく知っていても利用しない状況もあり得る。それでも学びたいと思うには生涯学習センターやコミュニティセンターで、学びたいという意欲を育んでくれる仕掛けがなされ、その点を意識してくれる職員がいるのか。そのような課題も事業としてあると感じた。
- 課題となっている若者層は、若者が利用しようと思う施設を目指すよりも、若者に手を差し伸べる方向で考えるべきだと思う。マナーやメイク等の話の他に、社会人としての常識を、自分で学ばないといけない。大学に入ると、そのような学生が多いと思う。そういった学生に、もっと社会人としての常識を埋め込んでほしいと思う。それは学ぶ要求としてあるので、大事なきっかけとした方が良い。
- 学生は上の世代との交流や学習に意欲的であるが、学ぶことの醍醐味が分からない方もいると思う。学びたいことに関わりながら、生涯学習センターで利用者につながれ

る。「深く学ぶ」ことは、面白くて豊かだということを生涯学習センターで学べる。大学でも学べると思うが、地域社会でも必要だと思う。

- ・ 高校を出て就職したり、あるいは大学を出て就職したり、働いている人、あるいは生活のためにアルバイトしている大学生は労働権等とかを知らないことが多い。高校でも勉強していないし、大学でも言葉や学問として学ぶこともできず、問題を友達と話すこともなかなかできない。非正規労働者の方が、差別されているとの報告をし合った時に、50代40代ぐらいの方から「直面して初めて学ばなくてはならなかった。なぜ若い頃から働く権利等を学ばなかったのか」といった意見があった。このようなことを、若者に伝えていかなくてはならないと思う。行政のサポートがあるのに知らない方が多い。また、人権とかさっきの労働権もそうですが、十分に育くまれていない。地域社会でつながるきっかけは社会教育の事業として沢山作らないと駄目なのではと思う。生涯学習センターに関わらなくても自分で様々な企画ができるような力をつけていくことや、自覚的な学生や若者をもう一步励ますようなことが必要。若者青年対象の職員を位置付け、ずっと付き合っていくような体制も必要ではないか。
- ・ 47.5歳が日本の平均年齢。それ以下は若者と言っていいのではないか。若者提案は実現化できるものは1つでも2つでも実現させてほしい。子どもセンターに行けなくなる若者層の受け皿が必要。ネームバリューのある方を呼ぶと、人は集まる。
- ・ 広報まちだを活用すべき。今は希望者には全員に配布しているとのことであった。

【副会長】今日は皆さんの意見の報告で終わっている。次回、皆さんの意見を伺いたい。

### 3.その他

事務局より次回日程の説明